43 テーマ別 文法

出題傾向
- 文法で使われる用語を正しく覚えておこう。
「活用形を答えなさい」→×五段活用 ×下一段活用 ○未然形 ○終止形
「品詞名を書きなさい」→×付属語 ×体言 ○名詞 ○助動詞

標準問題

1 次の各問いに答えなさい。

(1) 次は幾つの文節からできていますか。算用数字で答えなさい。〈①山口・②北海道〉

① 面白い勝負ができるというものです。 ［　　］文節

② 全く予想もしなかったことを ［　　］文節

(2) 次の文は十二の単語に分けられます。上から八番目の単語を抜き出しなさい。〈岡山〉

▪彼女は歩いている兄に大きく手を振った。 ［　　］

アドバイス
(1)…文を文節や単語に分けるためのルールを覚えておこう。
❶文節の切れ目には「ネ」「サ」「ヨ」などが入れられる。
❷文節の初めは必ず自立語。
❸一つの文節に、自立語は一つだけ。
(2)…文節に分けてから、さらに単語に分ける。文節が自立語だけでできているのか、自立語と付属語でできているのかに注意しよう。

2 次の各問いに答えなさい。

(1) 次の文の主語と述語に当たる一文節を、それぞれ抜き出しなさい。〈愛媛〉

▪茶の湯のもてなしは、西洋のサービスとはいささか異なります。

主語［　　］　述語［　　］

(2) 次の――線が修飾している語句を――線から一つ選び、記号で答えなさい。〈青森〉

▪そこにはおのずと、香りや手触り、風の温度までが織り込まれてくる。
ア　イ　ウ　エ
［　　］

(3) 次の――線の文節と――線の文節の関係を後から一つ選び、記号で答えなさい。〈埼玉〉

▪丘の　上の　大きな　家まで　ゆっくり　歩く。

ア　主述（主語・述語）の関係　イ　修飾・被修飾の関係
ウ　並立の関係　エ　補助の関係
［　　］

アドバイス
文節の働き・文節と文節の関係についての問題。
(1)…文の中で「何が」「誰が」に当たるのが主語、「どうする」「どんなだ」「何だ」「ある・いる」「ない」に当たるのが述語。「どのように」「どのくらい」「どんな」「何を」などに当たるのが修飾語。
(2)…「おのずと」は、「自然に」という意味の副詞。
(3)…「ゆっくり」は「何が」「どうする」「どのように」のうちのどれに当たるか考えよう。

3 次の各問いに答えなさい。

(1) 次の文の□に当てはまる言葉を、平仮名二字で書きなさい。〈北海道〉

▪考えてみると、必ずしも旅の話である必要も［　　］。

(2) 次の――線の単語の品詞名を書きなさい。〈山口〉

▪「春になると、暖かくなってくるから」と思われがちです。

［　　］

(3)　次の文の――線と同じ働きをしている「くる」を後から一つ選び、記号で答えなさい。　〈奈良〉

▪進行方向左手に、雪をいただいた山々が迫ってくる。

ア　歩いてここまでくる。　イ　くる日もくる日も汗を流す。
ウ　ここにくるしかない。　エ　胸がわくわくしてくる。

□

アドバイス
(1)…「必ずしも」は呼応の副詞で、後にくる否定（打ち消し）の表現と呼応する。
(2)…まず「暖かく」が活用するかどうかを確かめよう。
(3)…「(迫って)くる」では「自分のいる方に近づく」という意味は薄れている。

4　**次の各問いに答えなさい。**

(1)　次の――線の語のうち、他と品詞が異なるものを一つずつ選び、記号で答えなさい。　〈①大阪・②千葉〉

①
ア　人を恐れることがない。
イ　植物のみを食べる鳥である。
ウ　日本の高山環境へのあらゆる面での驚くべき適応と進化である。
エ　年三回にもおよぶ換羽*。

(注)　換羽＝羽根が生えかわること。

②
ア　秋穂（あきほ）のお父さんに、会ったよ。
イ　会社から持ち帰ったんだろうね。
ウ　それが消されずに残っていたんだ。
エ　でも、だからって。

①□　②□

(2)　次の文の――線「ますます」と品詞が同じものを後から一つ選び、記号で答えなさい。　〈福岡〉

▪人間の子育ては、ほかの霊長類に比べてますます長くなっていきました。

ア　あらゆる人々に意見を聞いた。
イ　今日は、ゆっくり走ってみる。
ウ　彼は、穏（おだ）やかに説明を始めた。
エ　短時間ですばやく処理できる。

□

アドバイス
(1)…①は、全てウ段で終わり、体言を修飾しているので、動詞の連体形か連体詞。②は、全て文末にあり、付属語（助詞か助動詞）。どちらも活用の有無で判断できる。
(2)…「ますます」は用言を修飾する副詞。

5　**次の文を組み立てている単語の品詞の並び順として適切なものを、それぞれ後から一つずつ選び、記号で答えなさい。**

①　いうまでもない　〈三重〉
ア　動詞→助詞→助詞→形容詞
イ　動詞→名詞→助詞→助動詞
ウ　動詞→名詞→助詞→形容詞
エ　動詞→助詞→助詞→助動詞

□

②　よい目安である　〈三重〉
ア　形容詞→形容動詞→動詞
イ　形容詞→名詞→助動詞→動詞
ウ　連体詞→形容動詞→動詞
エ　連体詞→名詞→助詞→動詞

□

③　富士でも描こうか　〈京都〉
ア　名詞→助詞→動詞→助詞
イ　名詞→助詞→動詞→助動詞→助詞
ウ　名詞→助詞→助詞→動詞→助動詞
エ　名詞→助詞→助詞→動詞→助詞

□

アドバイス
品詞に分ける問題では、文節・単語を正しく区切ってみる。まず文節に分け、さらに自立語と付属語に分ける。次の点に注意して分けてみよう。
①…動詞「いう」に続く「までも」をどう分けるか。
②…「目安である」の分け方。
③…「でも」が一語なのか二語に分けられるのか。また、「描こうか」の分け方。

6 **次の各問いに答えなさい。**

(1) 次の――線の動詞と活用の種類が同じ動詞を後から全て選び、記号で答えなさい。〈岡山〉

▪その評判を聞いた秀吉（ひでよし）が実際に朝顔を見てみたいと望んだので、利休（りきゅう）は秀吉を自分の屋敷に招く。

ア 来る　イ 似る　ウ 折る
エ する　オ 配る

(2) 次の――線の動詞の活用形を後から一つ選び、記号で答えなさい。〈香川〉

▪この間、アオイが遊びに来てさ。

ア 未然形　イ 連用形
ウ 連体形　エ 仮定形

(3) 次の文の――線「生きる」の活用の種類と活用形を書きなさい。〈長野〉

▪かつては生きることは仕事をすることなりと割り切ることができた。

活用の種類　　活用形

アドバイス
「活用の種類」と「活用形」の区別ができているか確かめよう。それぞれの動詞に「ない」を付けて、「ない」の直前の音から活用の種類を確かめよう。ア段なら五段活用、イ段なら上一段活用、エ段なら下一段活用。活用形は、下に続く語に注目して判断しよう。

7 **次の各問いに答えなさい。**

(1) 次の――線の助詞と同じ意味・用法のものをそれぞれ後から一つずつ選び、記号で答えなさい。

① さっきから、後ろに付いてきているのはわかっていた。〈宮城〉

ア 安いから購入する。
イ 日が暮れたから家路につく。
ウ 明日から学校が始まる。
エ 疲れたから早めに寝る。

② その同じ黄色でありながら同じではない。〈茨城〉

ア 音楽を聞きながら読書をする。
イ 知っていながら黙っている。
ウ メモを取りながら話を聞く。
エ 歌いながら散歩をする。

③ しかし、ここで確認しておかなければならないのは、文字を持たない社会においても、当然、人々は日々懸命に生を営んできたという事実である。〈京都〉

ア 兄から借りた本は、作者の実体験をもとに書かれたものだ。
イ 妹は、今にも雨の降りそうな空を不安そうに見上げた。
ウ この歌を聞くと、いつも私はある情景を思い浮かべる。
エ 友人から、彼女は文章を書くのが得意だと聞いた。

(2) 次の文の――線「こそ」の働きを説明したものとして最も適切なものを後から一つ選び、記号で答えなさい。〈京都〉

▪子どもの目には裸に見える王に着衣を見立てていくイマジネーションこそ、茶の湯にとっての創造だからである。

ア 移動の方向や到達点を表す。　イ 限度や限定を表す。
ウ 取り立てて強調する。　エ ある事物を例示する。

アドバイス
助詞の意味・用法を問う設問。(1)③「の」の意味・用法はよく出る。
❶主語を示す　❷連体修飾語を示す　❸体言の代用　❹並立であることを示す
これらのうちのどれかを確認しよう。

8 **次の各問いに答えなさい。**

(1) 次の――線の助動詞の意味として適切なものをそれぞれ後から一つずつ選び、記号で答えなさい。

① 三つ目の「思う」は、これも決意で、断固とした表現に当たろう。〈青森〉

ア 勧誘　イ 意志　ウ 推量　エ 断定

② 研究室を統括されていた齋藤洋教授は、嘔吐の研究で国際的な知名度を誇っていました。〈福岡〉

ア 受け身　イ 可能　ウ 尊敬　エ 自発

(2) 次の――線の助動詞のうち、意味・用法が他と異なるものを一つずつ選び、記号で答えなさい。〈①福島・②三重〉

①
ア 明日は雨になりそうだ。
イ このケーキはとてもおいしそうだ。
ウ 先週退院した彼女はもう元気そうだ。
エ 午後の練習は体育館で行うそうだ。
オ 委員長は意見をまとめるのに苦労しそうだ。

②
ア 五年前までプロ野球選手だった人に会う。
イ 楽しかった修学旅行を思い出す。
ウ 先日の遠足で撮影した写真を飾る。
エ 部屋の壁にかかった絵を見る。

(3) 次の文の――線「れ」と同じ意味のものを後から一つ選び、記号で答えなさい。〈大阪〉

▪単に作法や平面的な茶室の美しさではなくて、その中で物が物として生き生きしてくるために、使うという行為の意義が問われてきました。

ア 私ならこの壁を越えられる。
イ 道に捨てられているごみを拾う。
ウ 先生は何時に出発されますか。
エ 昔のことが自然と思い出された。

アドバイス
助動詞も、意味が複数あるものは、その意味がよく問われる。特に「れる」「られる」は意味の識別が重要。「受け身」「可能」「自発」「尊敬」の四つの意味を当てはめて、文脈に合う意味がどれか判断する。

9 次の文の――線「らしい」と同じ意味・用法のものを後から一つ選び、記号で答えなさい。〈青森〉

▪自然現象であれば、「風が倒した」とは言わないで「風で倒れた」と自動詞で表現するのが日本語らしい言い方です。

ア 天気予報では明日は晴れるらしい。
イ その行動は実に彼女らしい。
ウ 桜の開花はもうすぐらしい。
エ 彼はたいそう料理が得意らしい。

アドバイス
「らしい」には助動詞の他に、形容詞を作る接尾語の「らしい」がある。
見分け方 ❶推定の助動詞「らしい」…上に「どうやら」を補える。
❷形容詞を作る接尾語「らしい」…上に「いかにも」を補える。

10 次の文の――線「ない」と同じ意味・用法のものを後から二つ選び、記号で答えなさい。〈岩手〉

▪その考えがよくないと思ったら、どんどん違うアイディアを出して乗り越えていく。

ア 私と彼とはたがいに面識がない。
イ その絵は居間にふさわしくない。
ウ 文化祭まであと五日間しかない。
エ 君に励まされたことは忘れない。
オ 彼のあの言い方は穏やかでない。

アドバイス
「ない」には、形容詞の「ない」と、「存在しない」という意味を失った補助形容詞の「ない」、助動詞の「ない」がある。補助形容詞の「ない」は助動詞の「ない」と意味がよく似ているが、直前の語が動詞ならば「ない」は助動詞、直前の語が形容詞や形容動詞ならば「ない」は補助形容詞である。